

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 1 日現在

機関番号：23501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20730339

研究課題名(和文) 米軍基地での環境問題に対する市民活動と地域社会

研究課題名(英文)

研究代表者 朝井 志歩 (ASAI SHIHO)

都留文科大学・文学部・非常勤講師

研究者番号：70405091

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：環境・公害、環境問題、市民活動、米軍基地、基地騒音、原子力空母母港化、環境汚染

## 1. 研究計画の概要

本研究は、軍事施設に起因する公害や環境問題の解決に取り組む市民活動や地域社会の取り組みを、聞き取り調査や参与観察などのフィールドワークといった、質的調査の手法をとることで解明し、問題構造を明らかにし、解決策について考察していく計画である。

具体的には、博士論文で扱った事例である厚木基地と岩国基地での基地騒音問題の追跡調査と、新たな事例である横須賀基地での原子力空母母港化問題について研究する計画である。

## 2. 研究の進捗状況

厚木基地と岩国基地に関する追跡調査は、順調に進んでいて、調査の成果を活かして論文などの形にまとめ、発表している。

厚木基地での騒音問題に関しては、厚木基地第4次騒音訴訟の公判の傍聴や、市民活動団体の主催した基地問題に関わるシンポジウムへの出席などを行い、参与観察や一次資料の収集によって、博士論文執筆以後から現在までの動向について調べた。また、厚木基地騒音問題に取り組む市民活動団体に依頼されて、シンポジウムで基調講演を行い、市民活動団体の記念誌にこれまでの厚木基地騒音問題をめぐる市民活動の歴史についての論文を執筆した。

岩国基地での騒音問題についても、地域の市民活動団体や基地騒音訴訟の原告などに聞き取り調査を実施し、研究成果を活かして論文を書いた。

横須賀基地での原子力空母母港化問題に関しては、この問題に取り組んでいる市民活動

団体の方々への聞き取り調査を続けており、市民活動団体主催のシンポジウムや学習会、講演会などに参加して参与観察を行い、第一次資料の収集に努めている。また、横須賀基地の浚渫工事差し止め訴訟の公判の傍聴もしている。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

研究は、当初の予定通り進んでいて、まだ発表されていないものの、2010年度にはこれまでの調査の成果を論文にまとめたり、学会や研究会で発表したり、依頼されてシンポジウムで基調講演を行ったりした。

## (1)論文の執筆

2011年度中に単行本として刊行される予定の「環境問題をめぐる規範理論」というテーマでの編著のうち、一章を担当することになったため、2010年12月に「米軍基地と公共圏 —岩国基地の拡張・機能強化から見た意思決定過程—」という論文を執筆した。また、『環境社会学研究』第17号に「リスクの矮小化 —横須賀原子力空母母港化問題でのリスクをめぐる言説—」という論文を2011年1月に投稿した。さらに、2010年5月に『都留文科大学研究紀要』に「環境問題の解決策をめぐる規範理論—基地騒音問題から考える環境正義—」という論文を投稿した。

## (2)図書の執筆

博士論文が単行本になった『基地騒音 厚木基地騒音問題の解決策』が2009年に刊行されたが、博士論文の完成以降に生じた、厚木基地や岩国基地での基地騒音訴訟や市民活動のネットワークの形成に関する事柄が、

調査によって判明したため、それらについて加筆、修正し、単行本の内容に活かした。

また、弘文堂から2011年3月に刊行された『環境社会学』において「基地公害」というコラムを執筆した。さらに、2010年11月にすいれん舎から出版された『環境総合年表』において、「オゾン層問題とフロン規制」「空港公害一般」「基地公害一般」「厚木基地公害」「岩国基地公害」「公害・環境関連訴訟」の執筆を依頼され、担当した。

### (3) 研究発表

2010年6月に環境社会学会の大会で「原子力空母母港化をめぐる”リスク”と”安全”」という発表を行った。横須賀の原子力空母母港化問題の概要を紹介し、原子力事故のリスクに対する関係者間における言説の相違について問題提起をした。

また、2010年5月と9月に「軍事・環境・被害研究会」での研究会を行い、横須賀基地での原子力空母母港化問題について報告した。さらに、2010年10月に行われた「第3回米軍基地環境調査国際シンポジウム」にて、依頼されて基調講演を行った。

## 4. 今後の研究の推進方策

2011年度は最終年度であるため、これまで行ってきた調査をより深めることと、これまでの研究成果をまとめ、報告書の執筆に取り組むつもりである。

横須賀基地の原子力空母母港化問題に関する、関係者への聞き取り調査のうち、まだ聞き取りをしていない方々への調査を秋までに集中して行うことを予定している。

また、これまで執筆した論文や、学会や研究会での研究発表などを加筆、修正し、報告書の執筆を進めていく。

さらに、2011年6月には環境社会学会での企画セッションとして「軍事活動に伴う環境被害」を「軍事・環境・被害研究会」のメンバー4人で行うことになっている。報告者の一人として、環境社会学における基地などの軍事施設に起因となる環境問題の研究の歴史や学問としての位置づけなどについて発表する予定である。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

(1) 朝井志歩、「基地騒音対策の問題点—受苦の集中的局地化」、『都留文科大学研究紀要』第70集、p.69-88、2009年、査読有り。

[学会発表] (計1件)

(1) 朝井志歩、「原子力空母母港化をめぐる”リスク”と”安全”」、第41回環境社会

学会大会、2010年6月6日、岩手県葛巻市。

[図書] (計3件)

(1) 朝井志歩、『基地騒音 厚木基地騒音問題の解決策と環境的公正』法政大学出版社、2009年、338ページ。

(2) 朝井志歩、コラム「基地騒音」、『環境社会学』、船橋晴俊(編)、弘文堂、2011年、p.41。

(3) 朝井志歩、『環境総合年表 -日本と世界-』環境総合年表編集委員会、すいれん舎、2010年。 p.170, 171, 210, 212, 213, 217, 218, 389-393。